

専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

「卒業してからの私」

10回生の松本です。

創造短大を卒業して、静岡の天竜厚生会に勤めております。高齢者施設に6年、そして現在は救護施設2年目になります。仕事をする中でやりがいを感じる事が2つあります。1つ目は人生の大先輩の優しさ、おおらかさを、感じる事が出来るところです。仕事に就く前は内心介護職か…という感情があり、あまり良いイメージが持てませんでした。

しかし実際に働いてみると想像以上に高齢のご利用者様の心のおおらかさ、優しさに日々触れることができることに、喜びを感じるようになりました。今の高齢者の方は戦争や震災などの苦難の道を通ってきた方々であり、現代の若い世代にはないおおらかさを持つ方が多いと感じました。そんな大先輩の経験談を聞くことや、生活歴を知ることが、他の職種では味わえない大きな学びとなっています！

2つ目は自分が行った支援で何かができるようになった時の喜んだ表情が直に観れることです。

私が高齢者施設に在籍している頃に担当の利用者様に胃瘻をしてる方がいました。

その方は経口摂取をずっと希望しており、私が担当になるまで中々実現することが出来ていませんでした。自分が担当になって初めに考えたのが同じ立場になった時にどこから始めていけば無理なく経口摂取できるようになるかでした。好物をヒヤリングし、始めは蜂蜜を舐める所から始めました。看護師、言語聴覚士、栄養士などと会議やシミュレーションを重ね、状態に、応じて難度を上げていき、最終的にはソフト食が食べられるようになり、ご本人、ご家族共に涙を流して喜んでいた事を今でも覚えています。私自身も始めてソフト食をむせずに食べれた時は小さくガッツポーズが出ました。

そしてその方が亡くなられた時にご家族の方が、「あなたが担当になってくれて本当に良かった。もう一度口から食べられるのを見れるとは思ってませんでした。本当にありがとう」というお言葉を頂き、この仕事をしていて本当に良かったと思いました。

2021年12月

10回生 松本駿